

HOPE 賞

北海道
HOPE賞受賞市町村



江差町地域住宅計画推進事業



事業概要

整備方針により「たば風の吹く里」は、5つのゾーンに区分され、まち全体の既存住宅地を8つの家並み形成地区に分けている。まちの景観に関しては、空間を公共建築、公営住宅、民間住宅などの空間構成に分類し、量的な一般住宅と、地区の核となる公共施設とが一体となるバランスのよい空間づくりを目指している。

自然と家並み、室内環境と暮らしについて「借景」を通して、楽しみながら景観づくりを実現していこうとする考えを「住まい運動」として展開することである。

計画の策定は、産、官、学から構成される「江差町HOPE計画運営協議会」で検討され、実施へと進められてきた。



計画概要

江差町地域住宅計画は、地域の気候、風土のなかで、特に風と海と人が培ってきた暮らしの知恵や工夫を生かし、次の世代に継承していく住環境の創出を目指し、新しい施策の住宅づくりが、まちづくりの希望の風となる計画として進められている。「たば風」と呼ばれる冬の厳しい北風をキーワードに、まち全域を「たば風の吹く里」とネーミングし、実施対象としている。

計画の整備方針は、「住宅づくり」、「環境づくり」、「たたずまい」の3つの視点から市街地の住宅特性を調査し、江差らしさの資源の探求を図り、良好なまちの空間を構成することである。

事業実施場所	江差町全域
事業種別	住宅団地、個人住宅、公園、通路、道路、緑道、公共施設
事業制度	建築協定：「江差町建築協定条例」 地区計画：「江差町地区計画区域内建築物の制限に関する条例」、街なみ環境整備事業、公営住宅事業 公営住宅事業
事業主体	江差町
事業実施年度	平成3年度から

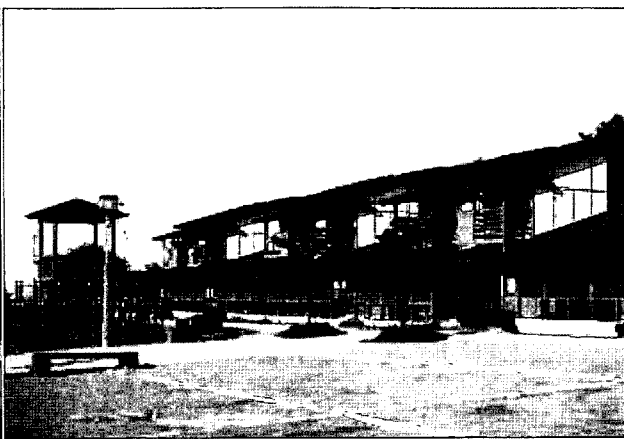


江差町道営住宅檜山団地整備事業



事業概要

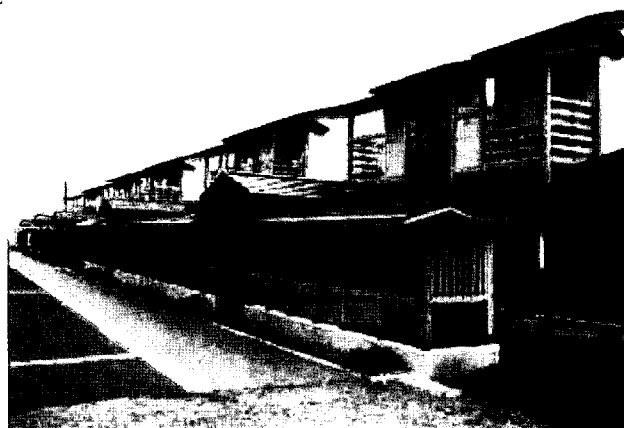
江差らしい住宅市街地を形成するため、冬のたば風、一年を通じての潮風、傾斜地と土地の狭さ、和風文化の伝統など、江差町ならではの地域特性を反映し、伝統と風土に対し機能的に対応した密度の高い住宅環境と住宅地景観の定着により江差らしい住宅市街地の形成を図ることとし、江差町の風、雪、雨や夕日を意識することにより、屋根、窓、玄関回り、門、塀、生け垣など住宅を意識する構成要素について、各々の家並み形成を図った。



計画概要

敷地面積： 9,102.0㎡
 建築面積
 延べ床面積
 構造 木造5棟
 1棟鉄筋コンクリート造
 型式 積層型、接地型
 タイプ別住戸面積：
 3LDK:68.52㎡66.51㎡、66.49㎡
 2LDK:59.57㎡、58.0㎡
 住戸数 46戸
 階数等 木造棟2階建て、RC棟4階建て

事業実施場所 檜山郡江差町字円山
 事業種別 住宅団地
 事業制度 公営住宅事業
 事業主体 北海道
 事業実施年度 平成4年度～平成7年度



☆ 旭川市 ☆

ウッドタウン緑が丘



事業概要

北国旭川の生活と風土に根ざした「住まい」と「暮らし」「まちづくり」について、ハード・ソフト両面から総合的に推進し、旭川HOP E計画に基づく「ウイントピア旭川をめざして」の理念と目標を具現化することを目的として行われた事業である。

木の街・旭川の特徴を生かし、まちづくりおよび住まいづくりのテーマとして「木」「緑」「美しい街並み」を掲げ、良質な性能をもつ北方型住宅の導入や木の内外観への利用、シンボルツリー設置等の景観に配慮した外構計画を行い、北国にふさわしいモデル団地として計画されている。

計画概要

敷地面積 29,657㎡
(住宅用地：20,096㎡ 公共用地9,561㎡)

区画数 70区画

建設戸数 戸建住戸 70戸

宅地概要 敷地面積 平均288㎡
(最大：381㎡, 最小：201㎡)

住戸概要 延床面積 平均150.79㎡
工法木造在来工法, ツーバイフォー工法
枠組パネル構造, 軽量鉄骨造等

団地概要 木製施設と小公園, 緑地の設置
木陰と植樹によるグリーンベルト帯の設置
歩道と車道(一部)のインターロッキングブロック仕上
電線(一部)の地中埋設化

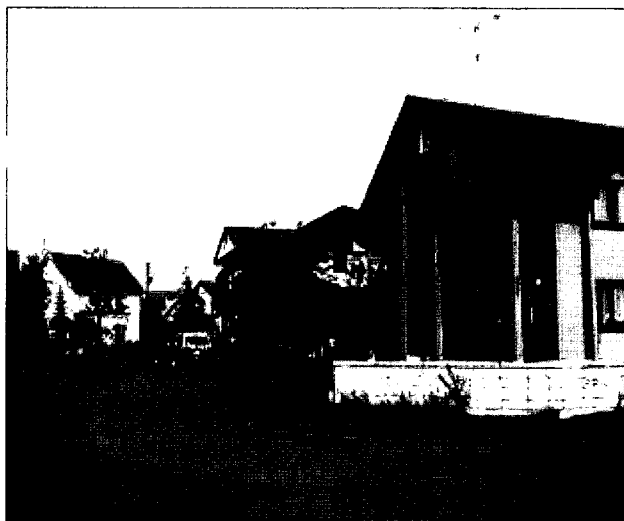
事業実施場所 旭川市緑が丘東2条3丁目

事業種別 住宅団地

事業制度 ウッドタウンプロジェクト
旭川市ウッドタウン緑が丘地区計画

事業主体 北海道住宅供給公社
(指導監理：北海道, 旭川市)

事業実施年度 平成2年

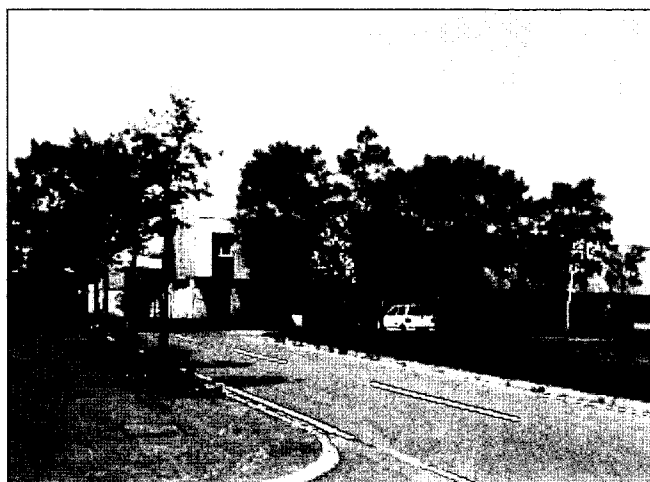


中標津町計根別団地



事業概要

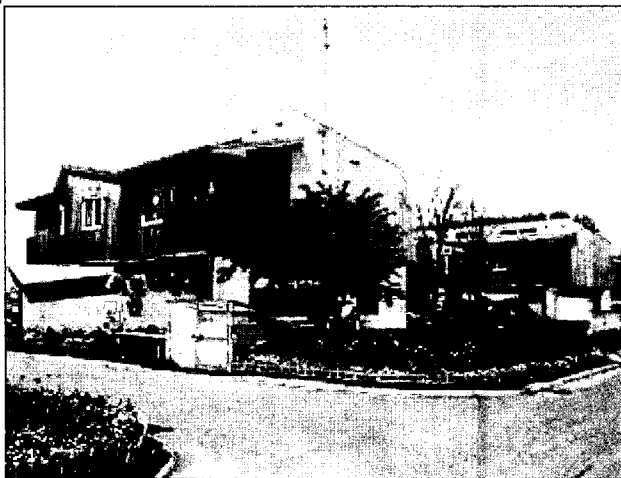
計画の目的：地域の発意と創意に基づき、地域に根ざした住宅政策の展開。
 地域の活性化：独自の農業経済圏を背景にして、自立的で社会的な気風を保持している。
 地域の住文化：農村集落市街地としての自然的、社会的な資源及び特性、新たな取り組み、動き等をふまえつつ、また、自然環境（エコロジー）の重視、多様性への寛容、集中から分散、経済性重視から生活重視など社会的な価値観の変化を見据えたまちづくり。



事業概要

住宅団地	
敷地面積	2.2ha
建築面積	2750.9㎡
延べ床面積	4009.25㎡
構造	準耐火構造
タイプ別住戸	3LDK 72.49㎡
	2LDK-A 62.48㎡
	2LDK-B 61.95㎡
	3LDK 73.21㎡
	2LDK 18戸、3LDK 24戸
階数	平屋、2階建
公園事業	
敷地面積	0.26ha

事業実施場所 中標津町根別南1条西4丁目7番・
 3番～南2条西4丁目4番
 事業種別 住宅団地、公園、通路、緑道、
 集会所
 事業制度 公営住宅事業
 事業主体 中標津町
 事業実施年度 平成5年度～平成7年



地場産材の活用



事例その1 津別町特定公共賃貸住宅建設事業（シャレー・ストゥル）

事業概要

HOPE計画において「木のつべつ木の里づくり」をテーマにまちづくりを行うことを方針として掲げ、地域整備の先導的役割として、町として初の中層住宅の外壁材に地場生産品であるトドマツ製羽目板を使用した。

また、同計画の住環境整備方針に則り、熱交換型換気を導入し生活環境の向上を図った。



計画概要	
敷地面積	2,145.79㎡
建築面積	606.52㎡
延床面積	1,308.32㎡
構造	鉄筋コンクリート造(中耐一部耐平)
型式	積層型
タイプ別住戸面	3LDKタイプ 67.62㎡×10戸
積及び住戸数	1LDKタイプ 40.52㎡×10戸
住棟住戸	2棟20戸
階数	3階建て
事業実施場所	津別町字東2条
事業種別	住宅団地
事業制度	公営住宅建設事業
事業主体	津別町
事業実施年度	平成5年度年度

事例その2 津別町商店街木製店頭看板設置事業（商店街活性化事業）

事業概要

HOPE計画にある「木にこだわったまちづくり」の主旨に則り整備された事業。

商工会の「商店街活性化事業」の一環として、地場産材を使用した木製看板の設置を商工会が中心となり、各店舗に呼びかけ実現したものです。

すべての看板が手作りで、商店街のイメージアップと活性化そして「木のまちつべつ」を感じてもらうことを目的に設置されました。



計画概要

津別町商店街に木製店頭看板の設置	
整備個数	平成4年度 50基
	平成5年度 40基
規格	W1.0m×H1.2m程度
材質	地場産の松材使用
デザイン	各店に一任
事業実施場所	津別町内市街地
事業種別	木製店頭看板設置
事業制度	木とのふれあい施設整備事業 (H4)・木の体験広場整備事業(H5)
事業主体	津別町・津別町商工会
事業実施年度	平成4年度～平成5年度

事例その3 津別町公営住宅建設事業（豊永団地）

事業概要

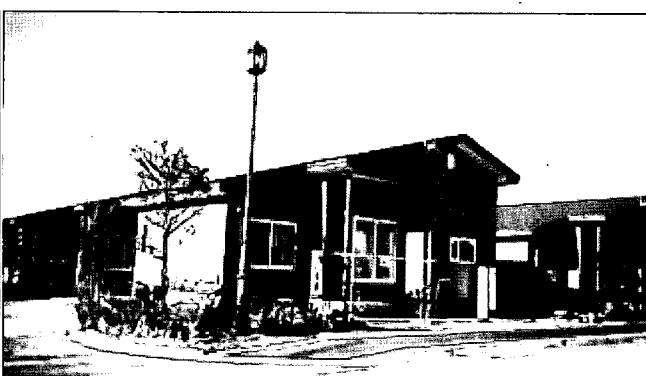
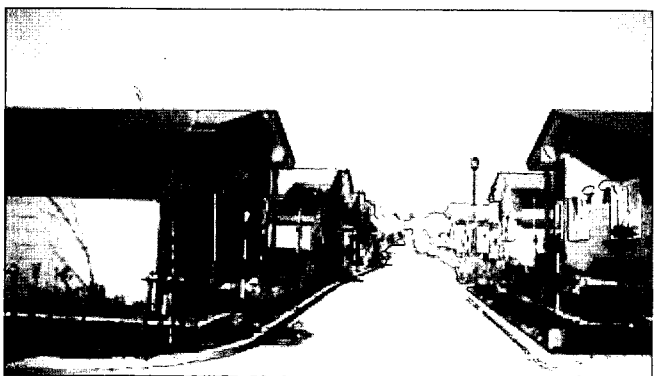
豊永団地の建替え事業は、平成元年度より行われていましたが、HOPE計画策定後その方針が反映されたのは、平成6年度以降に建設された住宅からです。

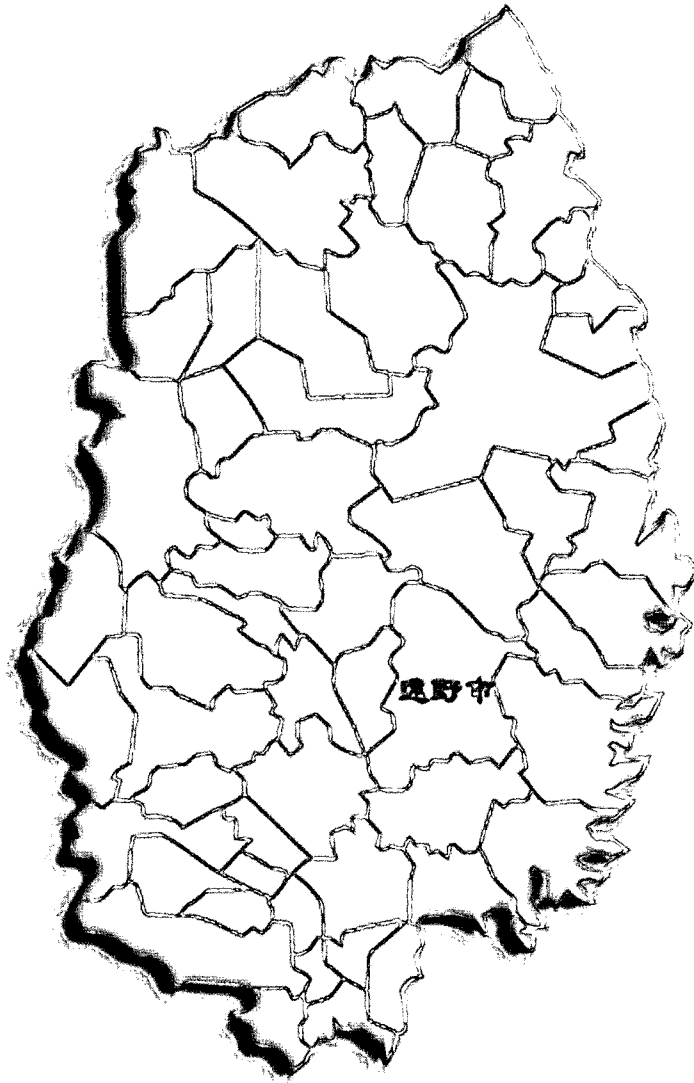
木造戸建ての高断熱・高気密化住宅は、地場生産の材を多く活用でき、地元建設事業者の技術向上や普及にも大きく貢献し更には、地域の活性化、民間住宅における住環境向上の啓発にも役立っています。



計画概要

敷地面積	12,861.80㎡
建築面積	1,014.67㎡
延床面積	956.25㎡
構造	木造（木平）
型式	戸建て
タイプ別住戸	3LDK-1Nタイプ 75.83㎡×1戸
面積及び住戸	3LDK-2Nタイプ 72.71㎡×10戸
数	3LDK-1Sタイプ 76.66㎡×2戸
住戸	13戸（団地全体は35戸）
階数	平屋建て
事業実施場所	津別町字豊永
事業種別	住宅団地
事業制度	公営住宅建設事業
事業主体	津別町
事業実施年度	平成6年度～平成8年度





岩手県
HOPE賞受賞市町村

☆ 遠野市 ☆

モデルハウス「遠野住宅」



事業概要

住宅づくりの基本理念に沿い、住まい方と技術的提案（多種多様な部材の合理化と供給体制のシステム化をねらう。）に検討を重ね、民家型構法を継承し、「遠野住宅」として建設した。またユーザー向けに木の良さと木造技術を再認識してもらい、販売供給をねらって試作・展示したものである。

建築概要： 木造2階建、延べ面積138.23㎡、事業費20,000千円。

- 基本コンセプト：
- ①木が呼吸できる、真壁構法の家
 - ②木組みで造る骨太の家
 - ③断熱材の適正使用で、省エネの家
 - ④大広間のある、ゆとりの家
 - ⑤健康的で快適な木づくりの家
 - ⑥高齢者が暮らしやすい、優しい家
 - ⑦結露対策に、木製サッシのある家
 - ⑧伝統美の薫る和室、床の間のある家
 - ⑨景観をつくり、景観に溶け込む家



計画概要

「いろりの心 遠野の住まい」を合言葉に住宅づくりを進めている。風土に培った日本の木造住宅の伝統工法や生活様式に学び、その技術や住まい方を継承し、さらなる発展を願い、次の考え方を基本としている。

- ①住まいの核である居間と食堂を「ワンルーム化」し、家族の温もりの醸成を図る。また、この空間の演出として、木材の仕様を基本とする。
- ②冬期間の暖房効率の低下を抑制するため、玄関に「風除室」を設ける。
- ③家事動線の簡素化や配管の単純化を図る「水廻り計画」に配慮する。

事業実施場所	遠野市青笹町糠前1-26-1
事業種別	住宅（試作・展示）
事業制度	地域木造住宅供給推進事業
事業主体	遠野市（ただし、展示及び管理は㈱リンデンバウム遠野）
事業実施年度	平成2年度



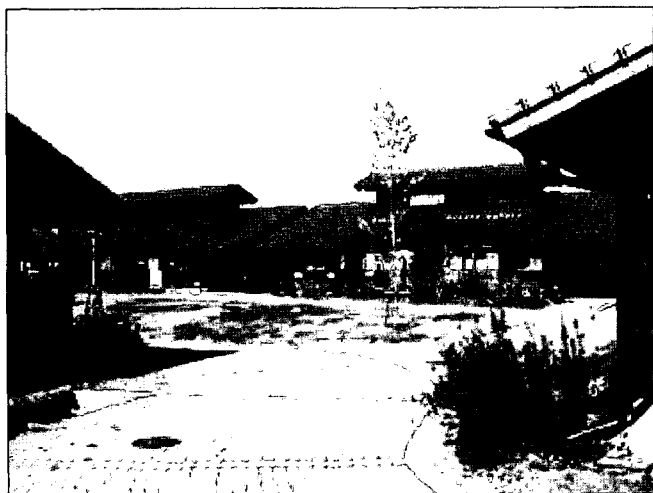
鶯崎市営住宅第6団地



事業概要

この公営住宅は、民家型構法を基本に、「新遠野住宅」の開発の試金石として建設している。伝統技術を継承し、「いろりの心」を創造する住まい、さらには林業・住宅産業の振興と工務店の近代化及び活性化を図ろうとするものである。「木材総合供給モデル基地」を背景に、原木から製材・乾燥、家具・建具、そして工務店までの連携によりコストの削減、部材・加工の合理化を図り、ユーザーに健康で安心できる住宅の供給ができる体制を整備しようとするものである。現在、取り組んでいる主な課題は、次の5つです。

- 課題：①信頼できる品質の確保<品質管理>
②合理的な新しい製材体系の創出<適材・適寸>
③近代化された生産システムの構築<地域性へのこだわり>
④パッシブな「中断熱・中気密」の実現<住宅の高気密化を避ける>
⑤高耐久性をもつ健康住宅<いろりの心>

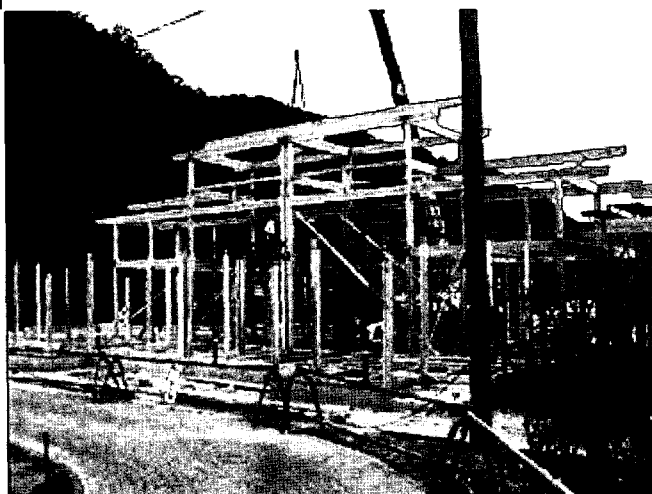


計画概要

景観に配慮しつつ、伝統的技術と生産性の高い近代的な技術の融合を図り、新たな住宅づくりの特記仕様に基づき建築する「新遠野住宅」具現化である。また、広場を中心とするコミュニティの形成や自然環境との調和に配慮した住棟配置、柱や梁を露出した真壁工法に、耐火性・耐久性・健康性を考慮した住宅としている。

建築概要

木造二戸一棟（40戸20棟）
1LDK（平屋建）：12戸 58.50㎡
2LDK（平屋建）：16戸 72.54㎡
3LDK（2階建）：12戸 83.07㎡
敷地面積 9,600㎡



事業実施場所 遠野市鶯崎町地内
事業種別 住宅団地（公営）
事業制度 公営住宅建設事業の補助
事業主体 遠野市
事業実施年度 平成9～12年度

下一日市地区土地区画整理事業



事業概要

事業に際し、建築士会の若手で、この地区の調査を行い、“中心市街地の目指すべき姿”を模索し（「町家の心」）、住民の合意計形成を経て、事業に着手した。この基本姿勢は、「“遠野らしさ”とは、新しいものをつくるだけでなく、いままで築き上げてきた、この地に存在するあらゆるものを組み立てなおし、再生することからスタートするべきである」としています。

具体的には、この地区にある観光施設と連動し、歴史的商家や土蔵を積極的に活用する蔵づくりを基調とした街なみや、地区に眠る貴重な財産を活用した施設を整備し、商店街の活性化を目指そうとするものです。

なお、この地区では、「下一日市地区景観形成住民協定」を締結し、建築物の創作的保全の街づくりを進めています。



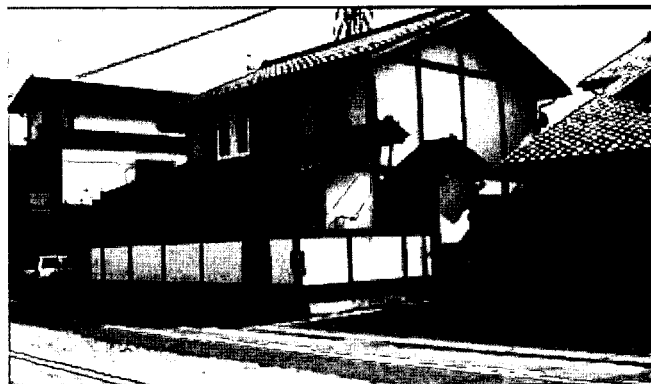
住民協定による街並み

計画概要

この下一日市地区は、大工町通りと隣接する位置にあり、大工町通りの完成をうけ、住民の街づくり気運が高まり、それが波及する形で、事業化に結びついたものである。大工町通りの線的な整備に対して、この地区は、面的な整備での取り組みである。また、遠野コリドール（回廊）計画に基づき、中心市街地の再生をも併せ持つ事業として取り組んでいる。

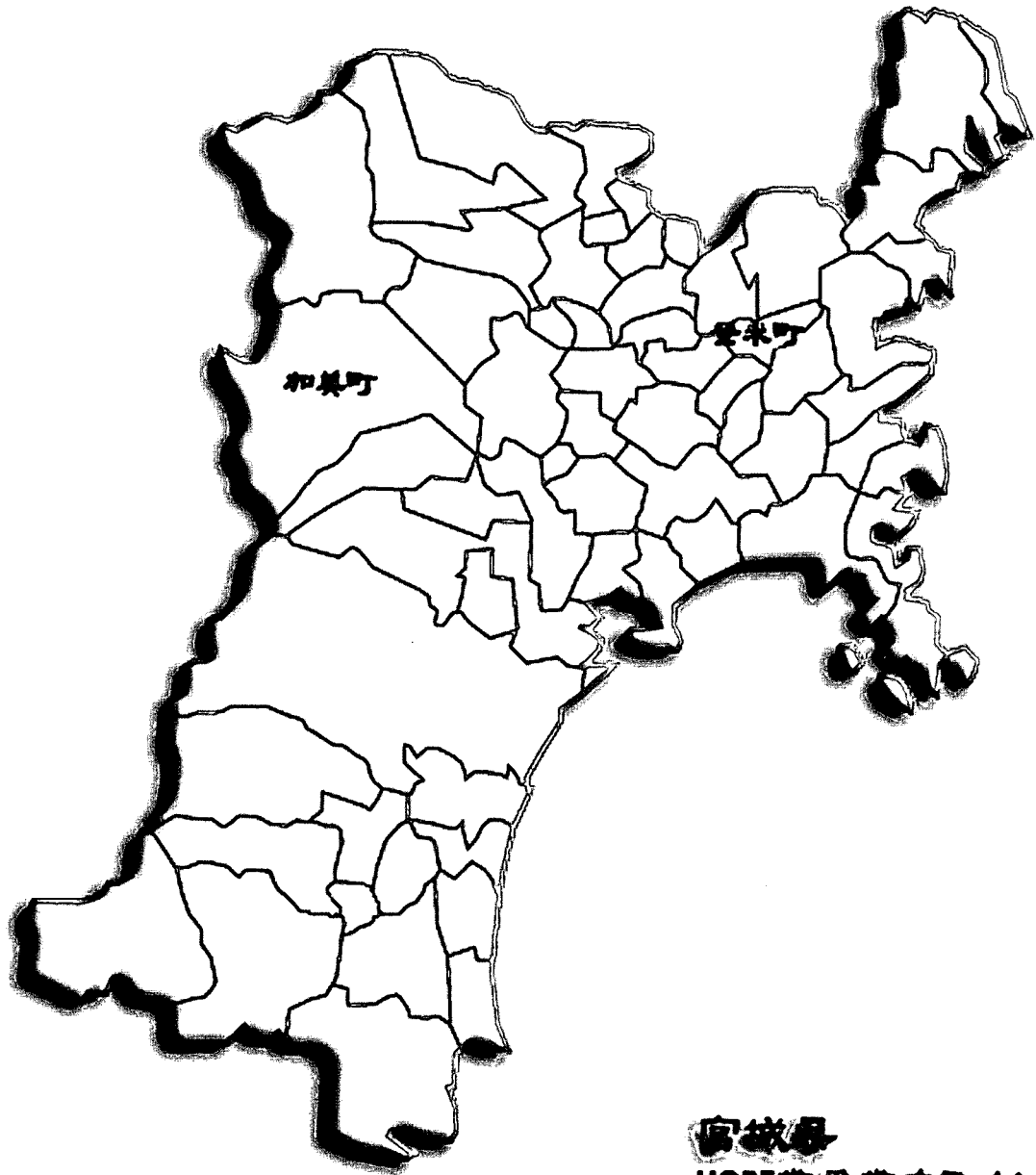
事業概要

施工区域面積約5.1ha
地権者65戸（移転率80%）
減歩率11.84%
総事業費36億円
進捗率59%（H14年度末）



新築された住宅の外観

事業実施場所	遠野市中央通り地内
事業種別	区画整理
事業制度	土地区画整理事業・まちづくり 総合支援事業
事業主体	遠野市
事業実施年度	平成5～18年度



宮城県
HOPE 青葉町村

中新田交流センター整備事業

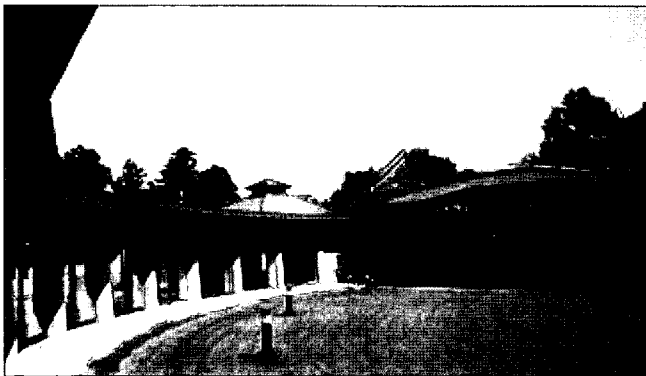


事業概要

本施設は、新鳴瀬小学校の移転新設にともない、旧鳴瀬小学校跡地に昭和8年に建設された旧木造校舎の建築意匠（コロニアルスタイル）の保存と生涯学習の拠点として現代によみがえらせた施設である。

整備にあたっては、半世紀以上地域のシンボルとして親しまれていた校舎の意匠を可能な限り残した。また、国内外の多くの人々が集い、ともに学び、ともに交流できる機能を持たせるため、本館となる旧校舎を南に約30m曳家の上改修し、円状の回廊で浴室などの付属棟を新設した。

木造校舎ならではの懐かしさを残しながらもモダンな内装でアレンジを加えよみがえった本施設は、今も地域の学校として地域と共に歩んでいる。



計画概要

敷地面積 17,000㎡

延べ床面積 2,676㎡

本館 木造一部鉄骨造2階建
1,635

食堂棟 鉄筋コンクリート
造一部木造平屋建 222㎡

浴室棟 木造平屋建 121㎡

回廊 鉄筋コンクリート造一部木
造平屋建 164㎡

多目的ホール 鉄筋造2階建 534㎡

事業実施場所 加美郡加美町下新田字松木
3番地宿泊交流研修施設

事業種別 宿泊交流研修施設

事業制度 町作り特別対策事業、活力
アル地域づくり推進事業

事業主体 加美町

事業実施年度 昭和63年度～平成3年度

街なみ環境整備事業



事業概要

- 計画の目的 区域内のゆとりとうるおいのある住宅環境づくりを推進するための道路整備
- 特殊工法 半たわみ性舗装・石畳風仕上げ
- 伝統的建築物保存 天然スレート塀、垣根、板塀、井戸端工植栽、火の見櫓保存整備
- 地場産材活用 登米町材骨材、天然スレート
- 住民参加等 登米町街なみ環境整備推進協議会により参画



計画概要

協議会活動助成、整備方 5.8ha
針策定

地区施設整備

通路（築造・舗装） L=116m、399㎡

小公園・緑地
（造成・植栽・造園） 1,322㎡

生活環境施設整備 1,231㎡

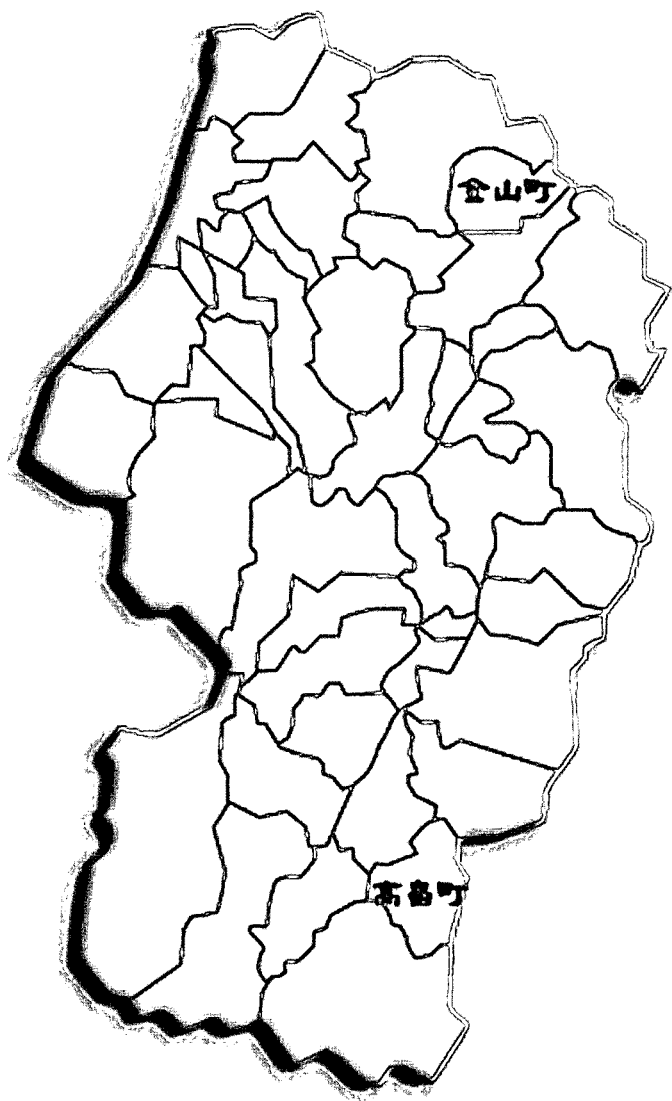
2戸1長屋建

ストリートファニチュア 4個

道路の美装化 L=197.5m、1,264㎡

事業実施場所	登米郡登米町寺池桜小路地区
事業種別	個人住宅、修景施設、通路、公園、集会所、ランドマーク
事業制度	街なみ環境整備事業、登米町街なみ景観整備要綱
事業主体	登米町
事業実施年度	平成7年度～平成10年度





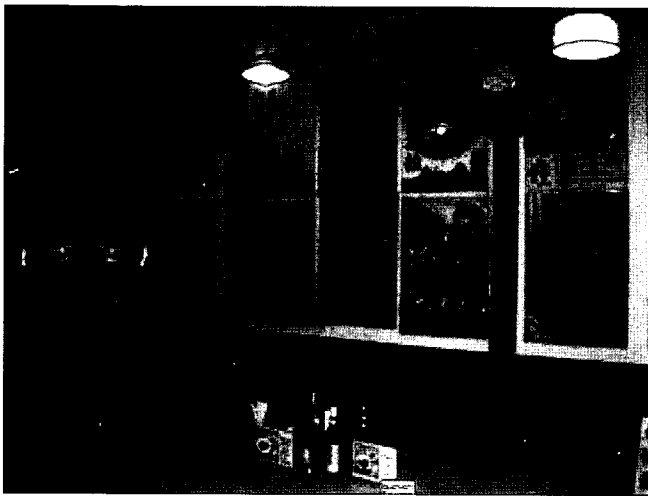
山形県
HOPE賞受賞市町村

中央通り商店街



事業概要

- レトロな雰囲気を作るために道路に面したブロック塀を板塀で覆い隠したり、店先の袖看板を撤去し業種にあった個性豊かな木製看板を設置する。
- 昭和30年代を演出するなつかしの写真やレトログッズの提供を呼び掛け、店の一部や空き倉庫等を利用し手作りのミニ資料館をつくる。
- 通りある約600個のプランターに花を植え楽しく、潤いのある「花の散歩道」づくりを行う。



計画概要

- 中央通りの個性を打ち出すために歴史を体験できる街づくりをと考え、昭和30年代にこだわった商店街づくりを進める目的で、当時の写真やポスターほかレトログッズを店の一部や空き倉庫を利用し展示する。
- レトロな雰囲気を演出する。(木製看板の設置や板塀の設置など)
- 通りを花でいっぱいにする。(プランターの植栽や空き地に花壇を設置する等)

事業実施場所	高島町大字高島地内
事業種別	中央通り集客力向上
事業制度	中小商業活性化助成事業
事業主体	高島中央通り協同組合
事業実施年度	平成6年度～平成13年度



☆ 金山町 ☆

街並み（景観）づくり100年運動



事業概要

個性豊かな街並み、自然の美観の維持並びに新しい街並み景観の形成に関する必要な事項を定め、もってわたしたちが自らの手でより快適で誇り高い郷土につくり上げることを目的とする。

- 金山町街並み形成基準
- 金山町街並み景観審議会
- 助成金交付要項

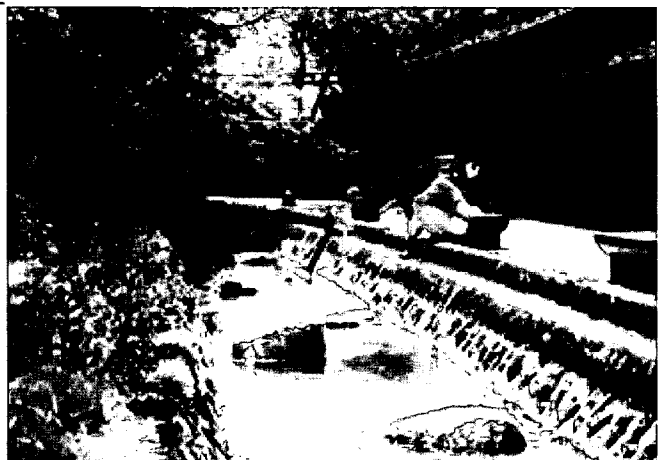


計画概要

先人が伝えてくれた金山らしい文化、自然を生かし、地域経済の活性化を促しながら、街並み景観づくりを進める。

- ・人と自然との関わりづくり、さらには人と自然との共生（調和）づくりの推進。
- ・美しい街並みの形成とC I（コーポレート・アイデンティティ）化、地域の個性化を推進する。
- ・地域風土、地域材、在来工法、杉を中心とした地域資源の有機的結合を図る。

事業実施場所	金山町全域
事業種別	金山町全域の景観づくり
事業制度	金山町街並み景観条例
事業主体	金山町
事業実施年度	昭和61年4月（金山町街並み景観条例施行）



☆ 金山町 ☆

街並みづくり資料館整備事業
(通称：蔵史館)



事業概要

明治30年代に建てられた二対の土蔵の、前蔵は食品や生活の雑倉庫として、後蔵は戦争直後まで米蔵として使用され、旧国道（羽州街道）を隔て、主屋と向かい合って今日まで残されていた土蔵を街並み景観に欠かすことのできない財産として町が買い取り再生した。

前蔵には金山町商工会の事務所を設け、後蔵は多目的ホールとして町のシンボリックな役割を担っている。現在では、ボランティアグループ「蔵の会」が組織され、訪れた方々をもてなしている。（毎週日曜日）



計画概要

敷地面積 1,120.54㎡
建築面積 308.31㎡
延床面積 348.70㎡
階数 地上2階
構造 土造

事業実施場所 金山町十日町地内
事業種別 古い土蔵の再利用
事業制度 モデルエコタウン整備事業（町単）
事業主体 金山町
事業実施年度 平成5年～平成7年

☆ 金山町 ☆

交流サロンぽすと



事業概要

町中心部の落ち着いた木造家屋が建ち並ぶ通りにおいて、昭和の初期に建てられた大正ロマン建築様式を醸し出す老朽化した旧郵便局舎（A=0.03ha）を「交流サロンぽすと」として整備し、再生を図った。※日本庭園含む

1階部分は、公衆トイレ・情報コーナー・交流エリア等で誰でもが自由に利用できるスペースとし、2階部分は、女性を主とする明確な目的をもった団体等に登録制で開放している。

平成15年度は6団体が2階使用に登録している。



事業実施場所	金山町十日町地内
事業種別	歴史的建造物の復元
事業制度	景観地域特定ポケットパーク整備事業（町単）
事業主体	金山町
事業実施年度	平成12年～平成14年

計画概要	
敷地面積	756.59㎡
建築面積	112.62㎡
延床面積	225.24㎡
階数	地上2階
構造	木造

☆ 金山町 ☆

街並み交流広場



事業概要

町民の憩いの場である「八幡公園」と地域コミュニティーの場として多くの人に利用されている「蔵史館」の前に広がる遊休地を、両方の施設を結びつける空間として整備した。金山町の特徴である「水清き金山」をイメージに水質浄化や水生生物との共生を試みる「せせらぎ」や多目的に活用できる「広場」の創造を図り、「憩いの場」や人々が交流する「賑わいの場」として町民にコミュニティエリアになっている。



計画概要

敷地面積0.13ha

- 親水地
- 園路
- 休憩所
- 石積水路

事業実施場所 金山町十日町地内
事業種別 遊休地の活用
事業制度 景観地域特定ポケットパーク整備事業（町単）
事業主体 金山町
事業実施年度 平成12年



☆ 金山町 ☆

水と親しむふれあい小路
(めがね堰)



事業概要

地域住民より生活用水として利用され親しまれてきた水路「めがね堰」の老朽化がすすんだための改修に合わせ、地域住民の憩いの場の創出という住民の創意を取り入れ、家並みに合わせた道路の整備を行なった。

地域では、「めがね堰鯉を愛する友の会」を組織し、水路の清掃や鯉の放流など水辺環境の美化め、また、沿道の家々では草花を育み、付近一帯は四季おりおりに潤いと安らぎを提供している。鯉の放流にあっては、地域子供会も強力し、地域全体をとりこんだ活動として、地域コミュニティーを担っている。



事業実施場所 金山町十日町地内
事業種別 水路
事業制度 単独事業
事業主体 金山町
事業実施年度 昭和62年～昭和63年度

計画概要

- 延長 L=88m
- 幅員 W=4m
- 水路幅員 W=1.1m

水路は、自然石を利用した割石積工、舗装は半たわみ性。

☆ 金山町 ☆

町営住宅羽場団地整備事業



事業概要

町営住宅の入居希望者が多く、既存施設だけでの対応が困難な状況になってきたことから、1戸建ての住宅を5棟整備した。

設計にあたっては、金山町HOPE計画及び金山町街並み景観条例に基づき、風景と調和するよう配慮するとともにモデルハウスの役割を担っている。

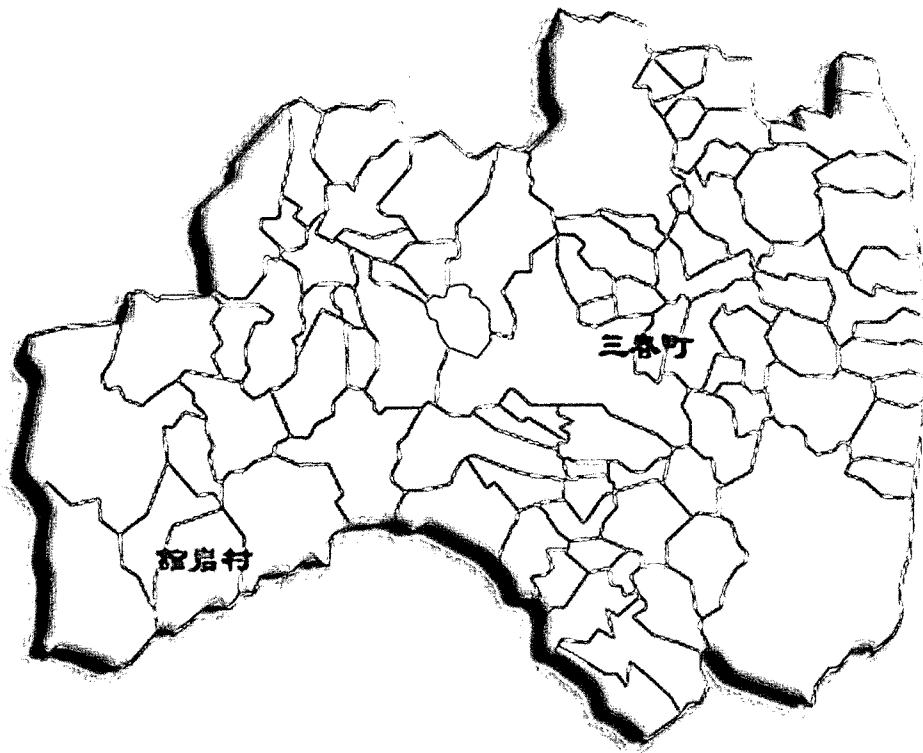


計画概要

敷地面積	1,400
建築面積	86.53
延床面積	113.04
階数	2階
構造	鉄筋コンクリート造・木造

事業実施場所	金山町羽場地内
事業種別	町営住宅
事業制度	公営住宅建設事業（国補）
事業主体	金山町
事業実施年度	昭和62年度





福島県
HOPE管受管市町村

大町地区街なみ環境整備事業



事業概要

当該地区の敷地形状は、表通りから背後の山裾まで延びる城下町時代からの短冊型敷地が連なり、角地や参道に面する敷地の一部には、切り売り等された狭小宅地や不整形宅地が見られる。表通りに面して商店が建ち並び、敷地奥には住宅あるいは幾度かの大火を免れた蔵が建ち並んでいる。

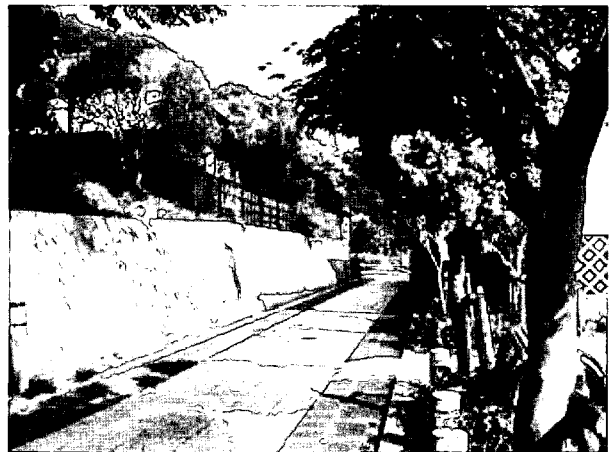
歴史と緑といった当地区の景観特性を活かし裏道（通路）を整備し、小公園をこらと有機的に結びつけて整備している。



計画概要

協定地区面積	1.19ha
通路延長	197.61m（御影石舗装）
小公園	2ヶ所
生活環境施設整備	木造 2階建1棟 土蔵 2階建2棟

事業実施場所	三春町字大町地内
事業種別	公園、通路
事業制度	街なみ環境整備事業
事業主体	みどりの小径街づくり協定地区
事業実施年度	平成3年6月26日協定承認



駅南部（八島台）コーポラティブ住宅建設事業



事業概要

当該地区は区画整理事業地区内における先導的拠点づくりとして、土地所有者、建築主、設計者、行政による協議に基づく「借地方式コーポラティブ住宅」として建設を実施している。また、この地区は、緑道や駅自由通路を通り三春駅に向かう動線上に位置しており、歩行者を主体とした区画街路の整備や、街路を住宅地区の一部として取り込める様な環境づくりを建築協定により定めている。



計画概要

- 区画整理事業地区内の換地の宅地化を促進するため、「借地方式」と「戸建コーポラティブの考え方」を組み合わせ、街区づくりの理念と建築協定制度に賛同する参画者（借地人）を募集し、全面道路添いのオープンスペースや、全体的にバランスのとれた木造住宅地の実現をめざした計画とした。
- 事業面積 : 1.54ha
- 対象住戸数 : 32戸

事業実施場所	三春町字八島台地内
事業種別	住宅団地
事業制度	建築協定
事業主体	三春町
事業実施年度	昭和62年度～



☆ 三春町 ☆

公営住宅かつぎばし団地建設事業



事業概要

当該事業は、公営住宅を建設し人が住む日常生活の場を作ることにより三春駅周辺を活性化させている。

路線敷を挟み南北に分離された極めて線型な敷地に呼応して、景観上優れたもので、かつ土地の有効利用を図る形態となっている。

駅に近接した公営住宅としての長所を生かし、更に八島台住宅地区との連絡も考慮した動線となっている。



計画概要

敷地面積	北棟4,487.78㎡、南棟3,268.70㎡
建築面積	北棟 863.97㎡、南棟 854.13㎡
延床面積	北棟2,600.04㎡、南棟2,352.45㎡
構造	鉄筋コンクリート造・4階建
型式	接地型
タイプ別	Aタイプ 75.61㎡ Bタイプ 72.62㎡
住戸面積	Cタイプ 64.25㎡ Dタイプ 64.25㎡
	Eタイプ 58.51㎡ Fタイプ 84.92㎡
住戸数	北棟28戸、南棟28戸

事業実施場所	三春町大字平沢字担橋地内
事業種別	公園、通路
事業制度	住宅団地
事業主体	三春町
事業実施年度	昭和62年度～平成2年度



館岩村湯ノ花団地



事業概要

計画の目的 伝統工法に新技術を取入れ技術の習得を図る。

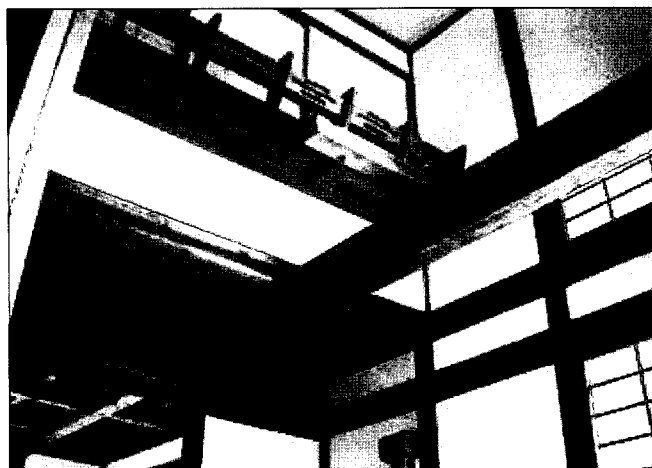
- 伝統工法 差鴨居などの継手仕口を採用
- 住民参加等 住まいづくり研究会にて、館岩らしい住まいづくりのポイントとまとめ、公営住宅に取入れる。
- 気候風土に関する工夫 冬期間の寒暖の差が激しいため、外断熱工法を採用し、豪雪地帯でも快適な空間を確保する。
- その他 地場産の木材を使用することによって、木のぬくもりを感じられる仕上げとしている。

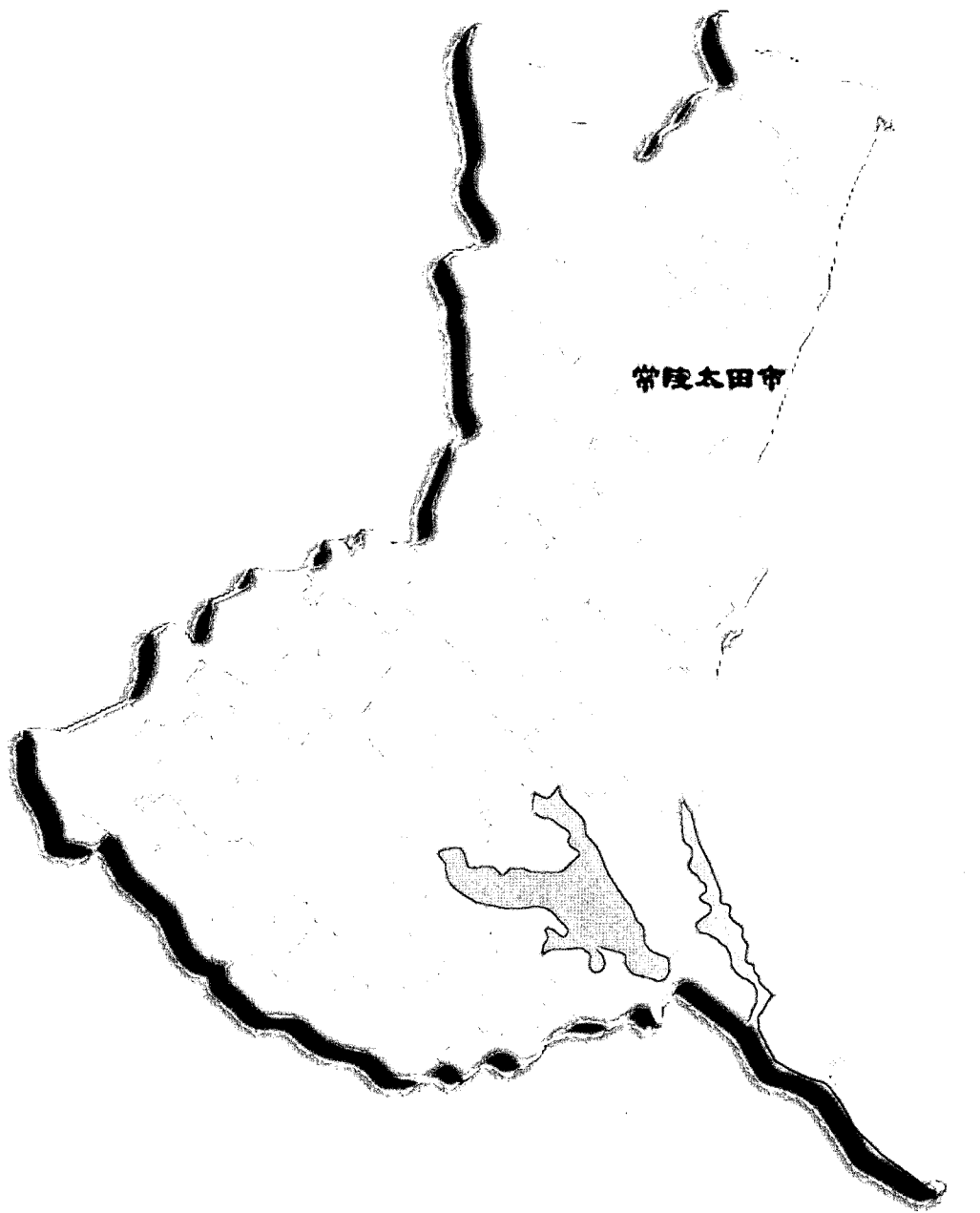


計画概要

敷地面積	3,155㎡
建築面積	156.84㎡
延べ床面積	75.12㎡ (一戸当たり専用面積) 78.42㎡ (全住戸面積)
構造	木造2階
型式	2戸1タイプ
計画建築数	2戸1タイプ 4棟
平成12年度	2棟 A・B棟
平成13年度	1棟 C棟
平成15年度	1棟 D棟

事業実施場所	福島県南会津郡館岩村湯ノ花団地
事業種別	住宅団地
事業制度	公営住宅事業
事業主体	事業主体 館岩村 管理主体 館岩村
事業実施年度	平成12年度～平成15年度





茨城県
HOPE常陸市町村

通り塩町地区街なみ環境整備事業



事業概要

- 小公園緑地：地区住民の憩いの場として、都市のオープンスペースとして整備する
- 道路美装化・ストリートファニチャー：市街地の景観形成やアイストップとして、整備する
- 修景施設整備：まちづくり協定による修景助成により、ファサードを整備し景観形成を促進する



計画概要

- 対象面積 6.6ha
- 対象住戸数 111戸（歴史的建物 44棟）
- 道路の美装化（自然石貼り舗装）
- 小公園・緑地等整備（東の辻、金が井、塙坂緑地等）
- ストリートファニチャーの設置（塙坂の井戸等）
- 修景施設整備（建築物、工作物等の修景助成）

事業実施場所	寿町、西一町、西二町、東一町、東二町、塙町、金井町の各一部
事業種別	道路（美装化）、小公園・緑地、通路、修景整備（建物、工作物等）
事業制度	街なみ環境整備事業
事業主体	常陸太田市
事業実施年度	平成10年度～平成19年度





喜慶川町

栃木県
HOPE嘗受嘗市町村

☆ 喜連川町 ☆

フィオーレ喜連川



事業概要

温泉を基盤とした振興計画を立案し、その中で住宅の開発を含め6つのゾーン計画（住宅・工業・ショッピング・観光・スポーツ）を策定するなど、町の活性化を図る計画とした。

また、住宅団地の計画にあたっては、定住人口増加の促進や就業者に供給できる住宅団地となるよう配慮した。
[開発理念]

- ①振興計画の基本構想の遵守
- ②自然環境保全の重視
- ③公共施設の充実
- ④快適でゆとりある人間性豊かな生活空間の提供

[特徴]

HOPE計画に基づき建築協定を作成し、知事の認可を受けて宅地購入者全員と協定を締結し、独自の建築制限と環境保全に努めた。

- ①地域住宅計画推進委員会の設置
- ②建築協定地区の設定
建築協定に基づく
- ③用途、形態の制限
- ④敷地の利用制限、広告物の制限
- ⑤違反者の措置の明確化



計画概要

開発面積 82.3ha
計画人口 4,518人
計画戸数 1,221戸

内訳

宅地分譲 894戸
住宅分譲 223戸(戸建)
104戸(マンション)

事業実施場所 塩谷郡喜連川町大字喜連川
事業種別 宅地開発事業
事業制度 住宅宅地関連公共施設整備
促進事業
事業主体 喜連川町
事業実施年度 平成2年度～平成10年度

